

なかや 仲家こうじ

後援会だより

No.19
2020年2月



発行者：仲家こうじ後援会（〒879-2201 住所：大分市大字佐賀関 2232-159 電話：097-575-3606）

大分市議会トピックス

第4回定例議会

令和元年第4回定例会が11月29日から12月13日までの日程で開会され、「令和元年度大分市一般会計補正予算案」、「特別会計補正予算案」など24議案が提案され、審議の結果、原案どおり可決しました。

<主な市政の動き>

ラグビーワールドカップ2019日本大会開催

44日間にわたって開催された「ラグビーワールドカップ2019日本大会」に関連して大分市が主催・共催したイベントには、延べ131万人が参加。大分市の「文化・歴史・食」などの様々な魅力を国内外に発信することができた。

大分川ダム（ななせダム）完成

40年以上の長きにわたり事業を進めてきた大分川ダムが完成。異常気象による災害や濁水などの不安が増す中、洪水被害の軽減や安定的な水道水の供給など、治水・利水の両面から市民の安全・安心の確保につながることになった。ダムの完成とともに地域の食材を使った食事などを提供する道の駅「のつはる」がオープン。今後は整備を進めている「(仮称)のつはる天空広場」など新たな魅力を加え、この一帯が観光振興の拠点、市民の憩いの場となるよう取り組む。

【主な議案】

◇令和元年度大分市一般会計補正予算案 … 補正額：34億9,500万円（総額：1,893億7,400万円）

今回の補正予算は、人件費調整や私立保育所等給付に係る経費を中心に編成され可決した。

■民生費 28億2,877万円

施設利用者増加に伴う私立保育所等給付費や障がい者介護・訓練等給付費などの扶助費のほか、介護保険法改正に伴う市民税非課税世帯の介護保険料が軽減されたことによる、介護保険特別会計への繰出金などの追加計上

■商工費 3億8,959万円

企業の設備投資及び新規雇用に対する企業立地促進助成金などの追加計上

■総務費 2億9,692万円

市職員の定年前早期退職等に伴う人件費、市税の減額更正に伴う過誤納金還付金などの追加計上

■消防費 1億389万円

消防団へ整備する救助用資機材に係る購入費などの計上

■土木費 4,838万円

急傾斜地崩壊対策工事負担金、住環境整備事業における建物等移転補償費などの追加計上

◇令和元年度大分市特別会計補正予算案 … 補正額：6億9,900万円

国民健康保険特別会計県補助金等精算返還金として3億200万円、介護保険特別会計(介護給付費)3億7,000万円、水道事業会計における浄水場の浸水対策に係る防水扉の設計業務などに2,700万円を追加計上。

◇線路敷ボードウォーク広場条例の制定について

・大分駅と大友氏遺跡間の鉄道残存敷に整備された線路敷ボードウォーク広場の設置及び管理計画

◇大分市営住宅条例の一部改正について

・市営住宅の入居者資格の特例を追加や民法の一部改正等に伴う所要の改正など

◇公の施設に係る指定管理者の指定について

・2020年4月以降、大分市大洲総合体育館の管理運営等に関する業務における指定管理者の指定

■佐賀関小黑地区 防災・減災の取り組み



小黑地区の減災・防災の取り組み（要望図）

佐賀関小黑地区の皆さんから相談を受け、南海トラフ巨大地震発生時の避難経路の確保並びに急病者・救援物資の輸送経路の確保に向けた道路の新設・整備に取り組んでいます。具体的には、

- ①大津波発生時、現在の避難道路は急こう配で道路も狭く、大津波による家屋の倒壊等により、通行できない可能性があることから、同地区を流れる小黒川を暗渠化し、その上部を避難経路として整備する。
- ②小黑地区唯一の生活道路である県道佐賀関循環線が大津波により決壊した場合、避難が長期化し地域の孤立化は避けられず、多くの高齢者が居住する同地区においては二次被害も懸念される。また、負傷者等の救護も困難なことから、県道佐賀関循環線につながる里道を舗装化し、緊急車両や支援物資運搬車等が通行できるように、早期の道路整備実施する。

の以上2点を「要望書」を大分市長へ提出しました。

本件については、引き続き当該地区の皆さんと連携し、実現に向けて粘り強く取り組んでまいります。

■小佐井小学校区通学路の安全確保への取り組み

小佐井小学校区に居住する組合員さんから、同小学校の通学路で朝夕の交通量が非常に多い交差点の安全が確保できておらず、信号を待っている小学生の列に車が飛び込む危険性があることから、ガードレールを設置してほしいとの要望を受けました。現地を確認すると、朝の登校時間帯は、横断歩道手前で多くの小学生が団子状態で信号待ちをしていること、その時間帯は、大型トラックや通勤車両等が数多く走行していることが分かり、防護柵の設置が喫緊の課題となっていました。そうした矢先に、滋賀県大津市の交差点で信号待ちをしていた保育園児の列に乗用車が突っ込み、多くの死傷者を出す交通事故が発生しました。小佐井地区から同様の交通事故を起こさないため、行政に対する働きかけを強化しました。

その結果、同所にガードパイプが150メートルにわたって設置され、通学路の安全性が向上しました。また、この件を契機に大分市長は市道交差点の安全再点検を実施するよう指示を出し、危険箇所が複数認められたことから、該当する市道交差点にガードパイプ等の防護柵を設置するために第3回大分市議会（2019年9月開催）で一般会計補正予算（案）にその費用を織り込んで提案し、可決されました。

現在、市道交差点各所に順次、防護柵の設置が進められています。



小学校入口交差点横断歩道付近にガードレール等の防護柵なし



設置されたガードパイプ(防護柵)

■種迫地区生活道路の安全確保への取り組み



種迫地区（航空写真）

種迫地区の皆さんから相談を受け、同地区の生活道路の安全確保に取り組んでいます。

同地区は大野川のほとりに位置しており、昔ながらの狭小道路が多く、普通乗用車の離合もままならない状態が長い間続いています。この取組みについては、昭和48年頃から同地区に居住する皆さんから幾度となく要望が大分市に提出されてきましたが、依然として未整備のままです。

車社会となって久しい現在も消防車や救急車等の緊急車両が同地区に入っていない状況となっていることを踏まえ、市民生活の「安心」「安全」を確保する観点から、消防車や救急車等の緊急車両の通行、普通乗用車が容易に往来できるように、その整備の実現に向けた取組みを始めています。